

チモシー中生品種との混播適性に優れる アカクローバ新品種候補「アンジュ」

目的と特徴

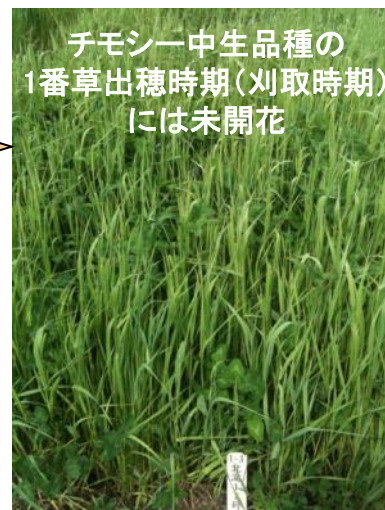
- ・収穫適期の拡大・分散のため普及面積が増加しているチモシー中生品種との混播に適するアカクローバ新品種を育成しました。
- ・アンジュ（育成系統名：北海17号）は1番草の開花始め日が早生品種よりも10日以上遅い晩生に属します。
- ・チモシーの再生の劣る2番草においても、被度や開花程度が小さく生育が穏やかなためチモシーへの抑圧が生じません。

早生品種の1番草開花盛期(左)に
「北海17号」は開花始め(右)



晩生の開花特性

チモシー中生品種の
1番草出穂時期(刈取時期)
には未開花



2番草は開花せずに、穏やかに再生
チモシーを抑圧しない



混播適性に優れ
高い永続性

播種後4年目の秋でも
アカクローバの株がしっかり残る



チモシー中生品種との混播、夏播種の利用3年間の年平均

合計収量 1040kg/10a

マメ科率 24.4%

標準品種と比べて合計収量で4%、マメ科率で1.8%増

成果

- ・標準品種と比較して、チモシー収量は同等ですが、アカクローバ収量が多収です。
- ・マメ科率が利用3年間の平均で1.8%高く、3年目以降の低下が小さいです。
- ・耐寒性に優れ、うどんこ病など主要病害の罹病程度も低いです。

北海17号の主要特性

表 「北海17号」と晩生の標準品種「アレス」との比較

特性		北海17号	アレス	評価法	説明
開花特性	開花始め日	7月9日	7月3日	春1番草、観察	早生品種「ナツユウ」は6月19日、早生品種より10日以上開花が遅いと晩生の区分となる
	着花茎出現程度	1.6	1.6	1:無—9:極多	春季の1番草の刈取時のチモシー出穂期に目視評価
競合力	アカクローバ被度	32	32	目視評価、%	チモシーの再生が弱い夏季に、アカクローバがチモシーを抑圧する程度を目安として、2番草刈取前の冠部のアカクローバ被度を調査
永続性	アカクローバ個体密度	14	14	実測、株数/m ²	試験終了年の4年目の秋の調査
	アカクローバ被度	24	24	目視評価、%	
越冬性	耐寒性	やや強	中	総合判定	根釧農業試験場における耐寒性特性検定試験による越冬性の総合判定、耐寒性は耐凍性等、耐病性は雪腐病等の評価
	耐病性	中	中		
罹病程度	菌核病	2.3	2.7	1:無・軽微—9:甚	各試験地から報告のあった病害を対象、罹病程度は目視評価
	うどんこ病	1.9	2.8		
	モザイク病	1.5	2.2		

開花始め日は北海道農業研究センターにおける個体植えおよび条播試験の平均値、それ以外の特性は越冬性を除き、北海道内の各試験地(北海道立総合研究機構農業研究本部4試験場、家畜改良センター2牧場、ホクレンおよび北海道農業研究センター)の平均値

北海17号の収量とマメ科率

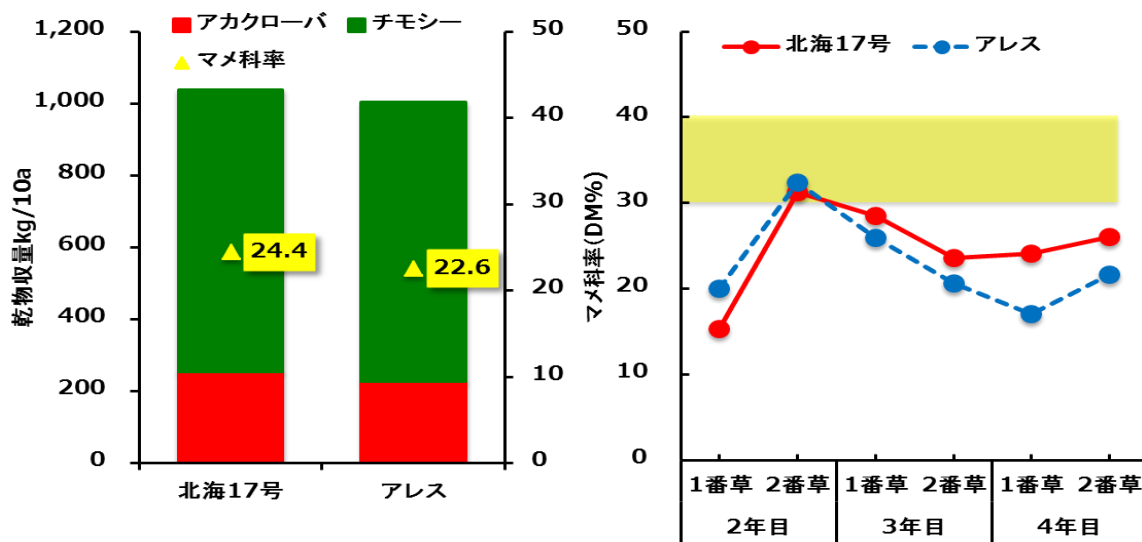


図 夏播種時(北海道内の3試験地平均)の2年目から4年目の草種別平均乾物収量(kg/年・10a)と乾物収量中のクローバ割合であるマメ科率(左図)およびマメ科率の年次・番草間推移(右図) 右図の黄色の帯は理想とされるマメ科率範囲

対象作物、普及対象

- ・アカクローバ、北海道

対象農家

- ・畜産農家、TMRセンター等の自給飼料生産組織

播種量、混播相手

- ・10a当たり0.3kg、混播の相手はチモシー中生品種(播種量1.5~1.8kg/10a)

その他

- ・倒伏を避けるため刈り遅れにならないように努め、夏播種は各地域の推奨播種時期までに行い、アカクローバの越冬性に必要な生育期間を確保してください。
- ・市販種子は増殖中で、農家への供給は2018年から開始する計画です。